Ｆさん：　（クラフト体験を担当する）月見山こどもの森のＦです。「歴史とロマンに包まれた月見山を歩こう」というように、月見山は非常に歴史に関するものがあります。そしてまた見るものもたくさんあります。

月見山は、高知から安芸までの間の一番最初の山です。そして、長宗我部元親と安芸国虎の合戦のあった所でもあります。

月見山は全体で２１ヘクタールで、山城まで行くのに大体４５分かかります。その中に遊べる場所がたくさんあり、いわゆるアスレチックで、グリーンアドベンチャーがメインです。山のアスレチックというのは県内ではここにしかありませんので、非常に人気のあるコースです。

子どもたちと一緒に作ったツリーハウスが２つありますが、これは、昨年、赤岡小学校の５年６年生を担任する先生から、「みんなゲーム機ばかりで遊んで、外へ出て行くことがほとんどない、何か子どもたちを外へ連れ出す方策はないか」と話があり、月見山の職員と赤岡の子どもたちと一緒に、月に１回ずつツリーハウスを作ろうということで、人工林のヒノキを伐採、間伐して皮を剥いで、それから乾燥させて一緒に作りました。子どもたちは大変喜んで、今でも遊びに来てくれます。

広場には、大きな天然林の木があります。天然林の木の枝からロープを１本ぶら下げて、横木を１つだけ付けた３６０度動くブランコは、小学生から幼稚園の子どもまで、非常に人気があります。

月見山こどもの森の利用者は、大体年間３万人。子どもたちが大体８５００人。月見山で森の話とか森のクラフトを作ったりする参加者が、大体５５００人ぐらいおります。

そして今、高知市のほうでは、放課後児童クラブというものを作り、それで地域の人たちが面倒を見ているようですが、勉強だけするというのは退屈なのか、我々にお呼びが掛かり、今年の８月は高知市から１２５０人ほど来園されました。

月見山では、クラフトでいろんなものを作っていますが、ほとんど手づくりで、山の木の枝を使ったり、最近、竹が非常に邪魔になっておりますが、その竹を使って「レインスティック」という楽器を作ったりしています。これは南アメリカのインカ帝国神殿で使った一番最初の楽器です。他にも竹笛などを作ることもあります。

このように山にあるものを拾い集めて、いろいろなものを作ることで、子どもたちに山のことを知ってもらう、勉強してもらっています。

目・口・鼻・耳の絵、こういう看板を月見山の山中には立てています。大人の方たちのほとんどはあれはなんだと聞きに来ますが、子どもは聞きに来ません。これは感性なんです。耳の看板のあるところでは、音を聞いてもらうんです。一体どんな音が聞えるか。風の音、人の話し声、自動車、いろんな音が聞える。子どもによって聞く音が違います。だから３人集まって話をすればいろんな音が聞えるということがよく分かる。これは目も鼻もそうですね。見えるもの、におうものも違いま

す。

なぜ、こういうことを考えたかといいますと、高知市の小学校の先生のところで、子どもたちが甫喜ヶ峰の公園について検討会をしたことがありますが、子どもたちは公園で看板をたくさん目にしたけれど、どの看板を見ても「何々してはいけません」と書いてあるけれど、「いけません」と文字で書いていなくても、手のマークを描いて、その上を×をしておけば、ここで何をしてはいけないのかわかりやすいのではないか。看板の表記は、そういう簡単なものがいいという提案があって、それ以来、これを利用させていただいています。

最近は、ヤ・シィパークさんとか、きらら桜祭などいろんなところへ楽しく参加させていただいています。これからも、よろしくお願いしたいと思います。